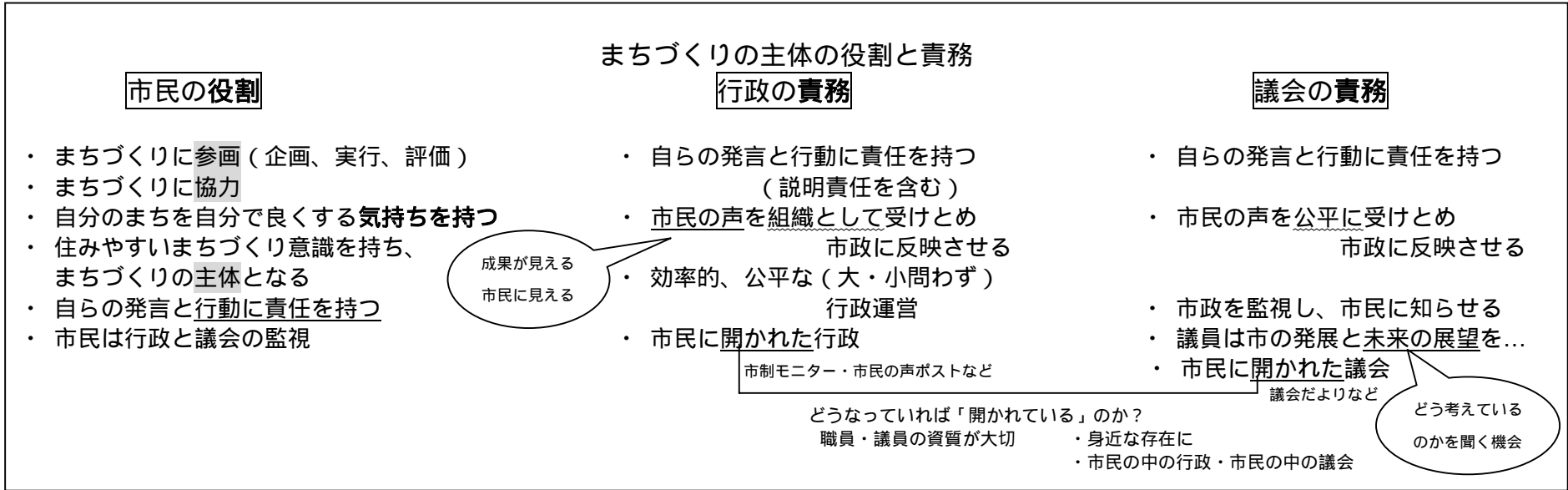


第 13 回みんなで創る自治基本条例市民会議

（平成 17 年 11 月 11 日）

各班の意見内容

ホワイトボード板書



発表内容

- ・ 前回のまとめと発表の内容を一応確認したが、今回のまとめとしても全く同じ意見ということで、今回は意見の中身について項目別にいろいろと検討した。
- ・ 一番大事なのは、「役割」と「責務」をどういう位置付けにするかというところで、これは今回非常に重要なテーマである。
- ・ この「役割」はあくまでも市民である。市民については個人・団体も含んだ市民がこの「役割」を担う。
- ・ 行政、議会については、これをしなければならないという強制的な部分もあり、その意味からして「行政の責務」と「議会の責務」として位置付けた。

市民について

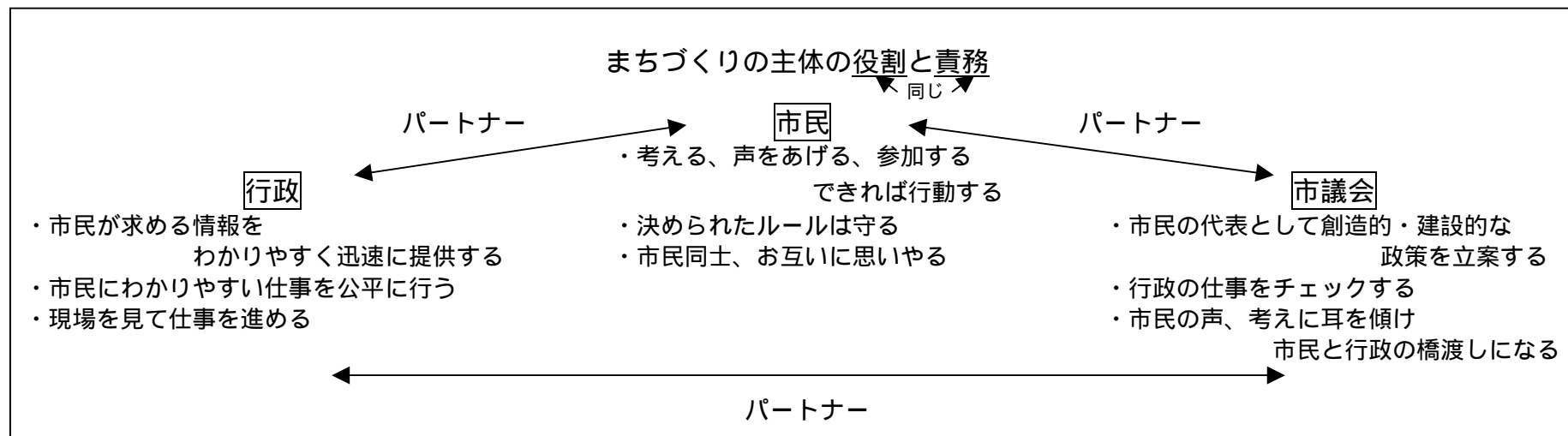
- ・市民の役割については、「まちづくりに参画」するということがあり、これは企画・実行・評価とあるが、最後の評価まであって本当に参画をしたというようにもっていかなければならない。
- ・「まちづくりに協力」については、自分から率先して協力体制を取っていかなければならないということである。
- ・「自分のまちを自分で良くする」気持ちを持つことが大事であり、「住みやすいまちづくりの意識を持ち、まちづくりの主体となる」というこの2つが市民の役割の中で基本だと考えている。これがひとつの大きなポイントである。
- ・「自らの発言と行動に責任を持つ」については、市民の「役割」だけではなく、この部分は「責任」も当然伴うということである。と

かく自らの発言、行動ということになってくると、自分のエゴなどがどうしても前に出てしまい、文句を言うてしまうということもある。「役割」の中では「責任」を持たなくてはならず、これが「責務」ということにもなってくる。

- ・ 「市民は行政と議会を監視」しなければならない。我々が選んだ議会議員であり、行政はひとつの指針を出すところでもある。市民はそのところをしっかりと監視をしていかななくてはならない。

行政・議会について

- ・ 行政の責務については、「自らの発言と行動に責任を持つ」ことであり、説明責任も当然含むが、責任を持って行動してほしい。
 - ・ 「市民の声を組織として受け止め、市政に反映させる」ことであり、これは成果が見えるように、あるいは市民の皆さんに見えるように組織として受け止めていかなければならないということである。
 - ・ 効率的、公平な、大小問わない、大きい問題であろうが、小さい意見であろうが、そういう「大小問わず公平な形で行政を運営」していかなければならない。差別をつけてはいけない。
 - ・ 「市民に開かれた行政」について、この部分では非常にいろいろと議論が出てきた。これと議会の責務も絡んで、「市民に開かれた議会」ということで出ている。「市民に開かれた行政」については、市政モニターについていろいろな意見が出てきた。今、13区を含めて40名の市政モニターがいるが、横のつながりではなく、モニターはあくまでも個人であり、個人からの意見に対して行政が回答するシステムであるが、もう少しそれを行政や議会に反映できるようなシステムが他にないかというのが、今後の課題になってきている。市民の声のアンケートでも「市民に開かれた行政」ということについては意見は個人からいくらでも聞くことができ、あるいは議会はホームページや議会だよりで市民に公開しているが、ではどうなっていれば「市民に開かれた行政」なのかということが問題になってきている。
- ・ 「職員、議員の資質」が大事である。市民が市役所や総合事務所に行っても、恥ずかしがったり遠慮したりしてなかなか職員や議員に意見を述べたり考えを聞いたりしにくいという部分もあるが、その温度差を縮めていかななくてはならないのではないかな。
 - ・ 議会の責務については、「自らの発言と行動に責任を持つ」ということでは、我々が選んだ議員であり、利害関係というものを持ってはいけないということで、自分の発言と行動には責任を持ってもらうということが責務ではないかな。
 - ・ 「市民の声を公平に受けとめ、市政に反映させる」ということでは、市民の声は当然公平に受け止めなければならず、それを市政に反映させるのが議員の責務である。
 - ・ 「市政を監視し、市民に知らせる」ことも責務である。
 - ・ 「議員は市の発展と未来の展望を」抱いてほしい。どう考えているのかを聞く機会を持たなければならない。
 - ・ 「市民に開かれた議会」については、先程説明したとおりである。



発表内容

- ・ まず役割と責務ということで、2班としては特に分けないということである。というのは、これをしなければならぬとか、そういう言葉にすれば責務になるわけで、あえて分ける必要はないだろうということである。それと前回の話の中から、わかりやすい行政とは何か。あるいは情報の提供とはどういうものか。例えば、予算書を出せばそれで情報の提供は足りるのかというようなことを話し合いながら、まとめに入った。

市民について

- ・ まず市民であるが、これは前回もまとめていたが、考える、声を挙げる、参加する。できれば行動する。これが市民の役割であり、また責務ではないかということである。
- ・決められたルールは守る。これはやはり社会生活をしていく上で規則、決められたことはきちんと守らなくてはならない。例えば市の決めたこともあるだろうし、地域のコミュニティの中で決めたこと

もあるだろうが、そういったことはきちんと守らなければならないということである。

- ・市民同士お互いに思いやる。これについては市民の中にもいろいろの各層がある。男女があり、体の不自由な方があり、あるいは子供がありということ、そのことでお互いに思いやる気持ちを持ち合わせなければならないということである。

行政について

- ・市民が求める情報をわかりやすく、迅速に提供するということがある。情報は出せばいいものではないし、ただ情報というものはある程度自分で求めたりするものだけれども、やはり求める情報をわかりやすく、迅速に、タイムリーに出すということが大切ではないか。
- ・それから市民にわかりやすい仕事を公平に行うということ。行政は政策集団であるので、言葉の面でもなかなか我々が理解しにくい表現で仕事を進めているが、それをわかりやすい言葉で、あるいは表

現や形で仕事を公平に行うということが行政の役割であり、責務であるということである。

- ・ 現場を見て仕事を進める。これは非常に大事だと思う。やはり現場を見るということは、ひとつには地域の皆さんと顔を合わせる、対面してお話をするということにもつながり、行政はぜひ現場を見て仕事を進めてほしいということである。

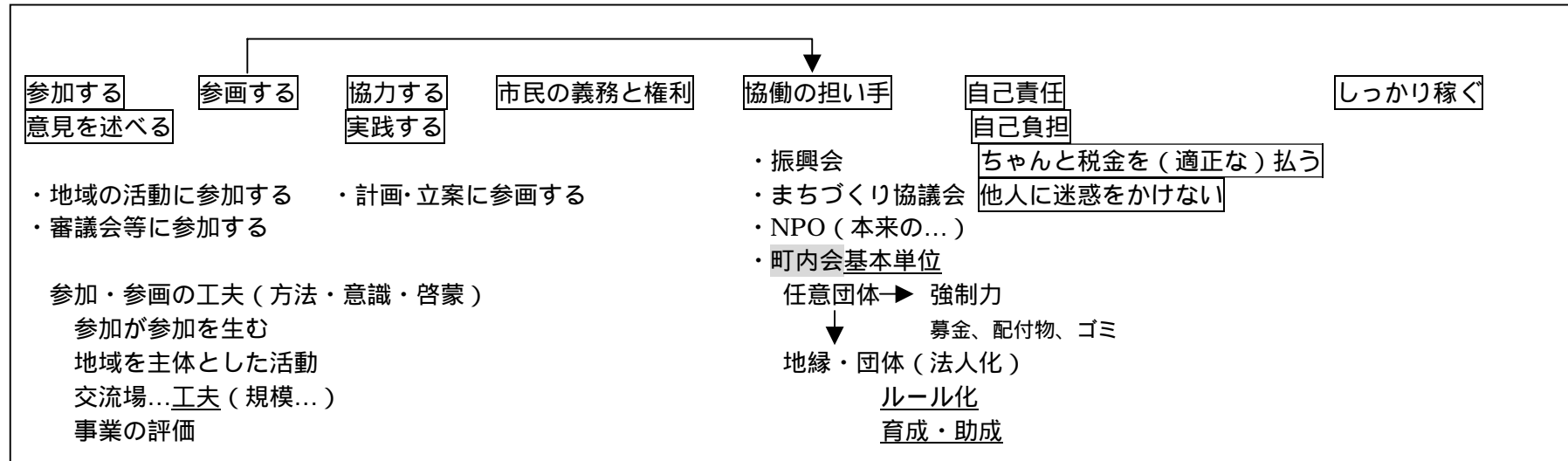
議会について

- ・ 市民の代表として総合的、建設的な政策を立案する。これは非常に議員の皆さんにはプレッシャーになると思うが、やはり将来を考えた場合には、従来のように対立的な関係で議会を進めるのではなく、一歩前へ話を進めるというような意味で総合的、建設的な政策を立案する。それがやはり市民の幸せにつながっていくことになると思う。
- ・ 行政の仕事をきちんとチェックするということ。これは議会の大事な仕事でもある。
- ・ 市民の声、考えに耳を傾け、市民と行政の橋渡しをする。これもやはり議員が現場に出なければできないことであり、そうした姿勢で市民の言うこと、考えを聞いて、そして行政に橋渡しをする、あるいは議会の場でそれを表現するということである。
- ・ 最後に、市民、行政、市議会を線で結んであるが、これはどういうことかということ、市民同士お互いに思いやりということで、言ってみれば市民はそういう思いやりの気持ちを持って、行政とも対峙するし、また議会とも対峙する。そのことによってお互いにパートナーシップが生まれて、まちづくりというか、そういったものが上手くできるのではないかということで、この「思いやり」という言葉からこういうふうに線で結んでみた。

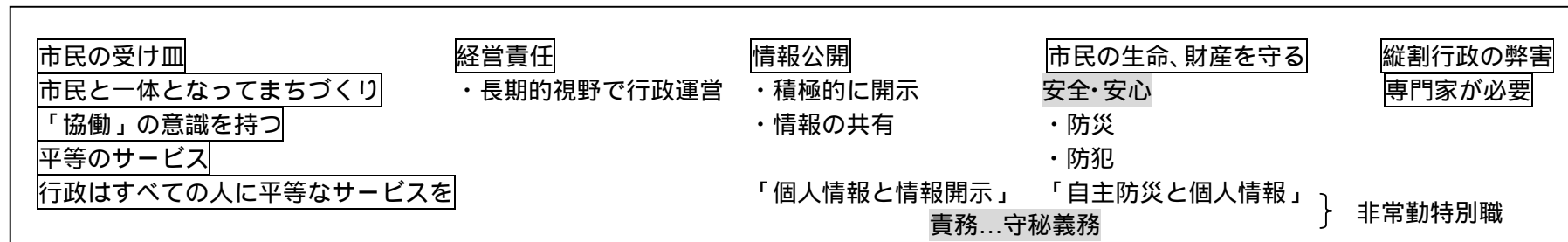
3 班

ポストイット内容

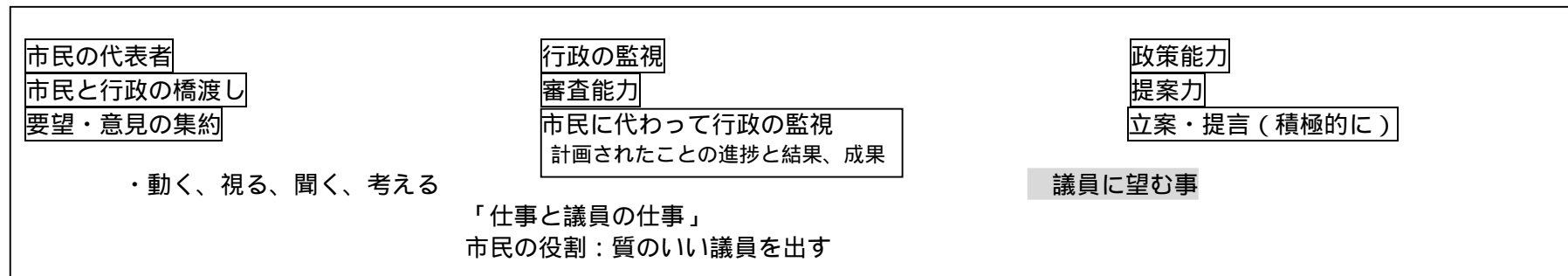
市
民



行
政



議
会



発表内容

- ・ 3班は前回、結論を出してしまったので、今回はひとつずつの内容について議論を深めていくことにした。

市民について

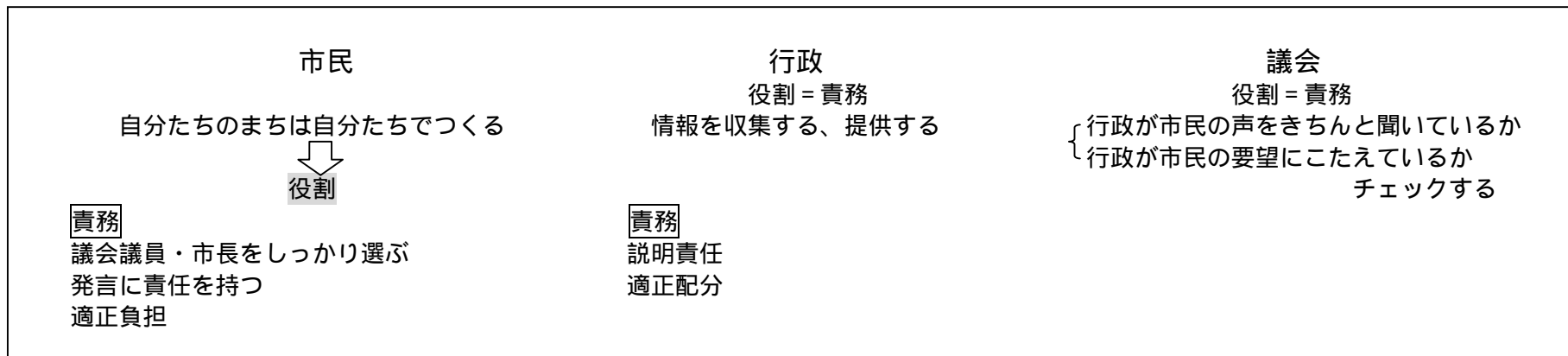
- ・ まちづくりの担い手として特に重要だと思われる町内会の位置付けについて話し合った。町内会は重要な基本単位であるにも関わらず、任意団体である。それゆえいろいろな問題が出てきているので、この条例の中で一定のルール化をしてもらいたい、という意見が出た。

行政について

- ・ 行政のところでも引き続き町内会についての議論が盛り上がっていたので、町内会への行政からの情報公開について話し合った。最近は個人情報保護ということで、町内会にはなかなか個人情報を開示できないと言っておきながら、自主防災の際には町内会を頼るといような矛盾が出てくるので、この条例の中でそういう矛盾を正すことができたらい、という意見が出た。
- ・ しかし一方では、旧 13 町村では町内会長は非常勤特別職として守秘義務を負っていた町村もあったように、開示には守秘義務が責務として伴うことを考え合わせていくことも忘れてはならない、という意見も出た。

議会について

- ・ 前回話し合ったときも、我々の班では議員の個人の資質を問う意見が多かったので、この条例には議員に望むことを盛り込んでもよいのではないか、という意見が出た。
- ・ また市民の役割として、質の高い議員を送り出す努力をすることが必要だという意見にまとまった。



発表内容

- ・ 私たちは最初に役割と責務の意味を教えてくださいました。役割はまず役目をそれぞれの人に割り当てること、また割り当てられた役目。責務は自分の責任として果たさなければならない事柄、努めだそうである。これを頭に入れて目指すものは何なのかを考えながら、自治条例を決めていこうということになった。
- ・ 市民に責務を当てはめるのはどうか、もっと柔らかな言葉でいいのではという意見もあったが、市民参画である点からも行政と議会と市民もイコールで、三者同じ立場の責務でよいということでまとまった。
- ・ 行政、議会の提案に市民の皆さんからできるだけ多く関わってもらいたい。
- ・ 市民の代表がやっていることには、個人が関わった、関わらなかったに関係なく、全員が協力し責任を持つ必要があるのではないか。
- ・ 市民やNPOでできることは自分たちで行う。行政にお願いするべきことはお願いするというふうに分担するのも良いのではない

かという意見もあった。

- ・ 市議会はまちづくり条例に必要なか、市民と行政だけでよいのではないかという意見もあったが、まちづくりにどのように議会を巻き込んでいくのかを考える必要があるのではないかという意見が出た。
- ・ 議会の役割として、行政は市民の声をよく聞いているか、そして議会を通った案を実行しているかをチェックすることである。行政の中には市長も含まれるということで、市民の責務として良い議員、また市長を選ぶことである。
- ・ 市民も情報を与えられるだけでなく、自分から必要な情報を得る必要がある。市民の信頼を得るためには財政状態などを含めた情報公開が必要である。それを行政の適正配分、市民の適正負担ということとまとめた。

5 班 ホワイトボード板書

市民	行政	市議会
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの主体であることを自覚する ・まちづくりに積極的に参加する ルールを守り、行動、発言に責任を持つ ・行政、市議会に対しチェックし評価する ・コミュニティの形成に努める ・企業・団体もまちづくりの一員として協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にわかりやすい情報提供、情報公開をする ・まちづくりに参加できる機会や手段を提供する ・まちづくりの担い手が能力を発揮できる 環境や体制を作る ・経営責任 （財源の確保と公平な予算の執行） ・スピーディーな行政運営、対応 	<div>全市的な活動を基本とする 地域に根ざした活動との関係・バランス</div> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙における地域との約束 ・請願における議員紹介 ・地域懇談会、報告会 （市民に身近な議会） <div>住民の声を伝える 結果を住民に伝える</div> <ul style="list-style-type: none"> ・議員提案 説明責任 ・市民の意見を聞き集約する ・議員活動と議会活動を区別

発表内容

- ・ ビリから 2 番目の出席率ということで、非常に集約できるのかどうかというところが始まったが、今回は非常に人数が集まり、闊達な意見が交わされたと思う。
- ・ 資料に添付されている意見を整理したものを、また整理したというのが今回の活動であった。より完結にということをモットーに、市民、行政、市議会の 3 つの中で、特に今回加筆されたところを発表する。

市民について

- ・ まず市民のところを見ると、我が班は企業というものに着目しているというのが特徴と思う。

行政について

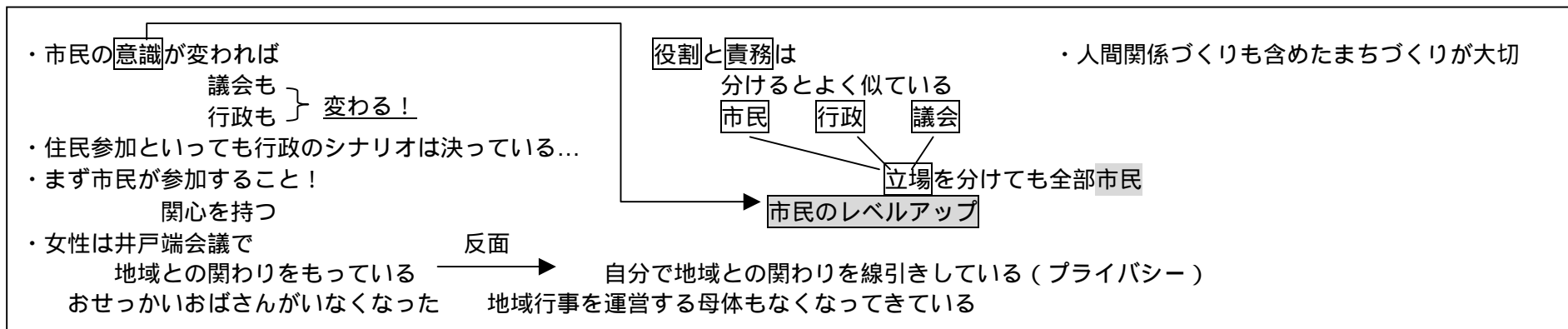
- ・ 行政のところでは今回加筆されたところは、行政にも経営責任はあるのだということ。
- ・ スピーディーに行政運営、また行政の対応をして欲しいという話も出た。

議会について

- ・ 最後に市議会のところであるが、もっと市民の意見を聞いてくれ、集約してくれ。これは前回も出たけれども、特に今回ここで議論になったところである。
- ・ また議員活動と議会活動、ここをどういう線引きするかということでも意見が出た。前回までを見ると、一文になっているところがあるので、もうちょっとわかりやすく、我々の意見を集約しようということで、それを箇条書きにしたというのが今回の議論であった。

6 班

ホワイトボード板書



発表内容

- ・ 市民、行政、議会ということでテーマを与えられたけれども、いずれにせよ市民であって、行政であって、議会である。これは立場の差であって、市民にとってはみんな同じである。立場上そうなっているだけということからみて議論しているわけであるから、市民には変わりないという認識である。
- ・ 役割と責務というのは、表裏一体のものであって、あえて分割して考えて、なかなか難しいところがあったものであるから、これを具体的に分割して提言したところはない。
- ・ 市民と行政、議会の立場であるから、市民がレベルアップすれば、こういうものが必然的にレベルアップしてくる。やはり皆さんが市民の一員として個々にレベルアップしていくことによって、非常にいい上越市ができていくというようなことに結論付けられるのではないかなと思う。
- ・ 女性の井戸端会議。これは非常に社会を生かしているのではないかな。情報が右から左へきちんと伝達機能をなしているというようなことも話し合った。
- ・ それから昔で言うと「おせっかいおばさん」、結婚をさせてあげたいというような口利き。そういう方がいることによって非常に世の中がうまく動いていたのだけれども、今は何か他人任せというか、「私知らないわ、勝手にやってよ」という形の場合が多いので、私達もそういうところに気をつけながら、地域運営をした方がいいのではないかなという結論であった。